



う え だ て ん ま ん ぐ う 植田天満宮

祭神 天満天神（菅原道真公）
祭日 5月5日

たいしょう 大正5（1916）年11月3日、ひろひとしんのう 裕仁親王（昭和天皇）のりったいしほうしゅくぎょうじ 立太子奉祝行事の一環として植田地区住民がかんじょう 勧請しました。その後、平成16（2004）年9月の台風18号により倒壊してしまい、平成17（2005）年6月5日に再建しました。

当時、坂八幡宮のぐうじ 宮司は、広島市山根町のおながてんまんぐう 尾長天満宮のけんむ 渡辺宮司がけんむ 兼務していたので渡辺宮司に依頼して、尾長天満宮のぶんれい まつ 分霊を祀ったものです。

祭神は、すがわらみちざね 菅原道真で、ごしんたい 御神体の神像は、高さ13cmの木彫の立像であって、はやし 林正市氏の作と伝えられています。

菅原道真は、平安時代に右大臣・文章博士として活躍しましたが、ださいのごんのそち 太宰権帥にさせん 左遷され、死後は、天満天神として祭られて、学問の神として異例のそんすう 尊崇を受けました。

天満宮は、古来、民衆信仰の最も厚い神社の一つで、京都のきたの 北野、ださいふ 太宰府、ほうふ 防府の日本三大天神をはじめ、全国に一万数千社を数えます。とくに瀬戸内沿岸は道真のさせん 左遷航路にあたるので、途中立ち寄ったという伝説にちなんで比較的多く存在します。

